

第2節 歴史を継承し、文化を創造するまち

2 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

<A 基本計画の目標>

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	51.4 %	52.7 %	56 %	65.6 %	66.1 %	↗

<C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

【生涯学習推進担当】

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 鎌倉の文化の質的向上や文化活動の活性化を図るため市民文化祭やジャズ祭を開催しました。 市民文化祭では、公募による美術展・写真展・書道展、また団体による鎌倉彫展・ばら展などの展示会と公募団体による演奏・演劇などの公演を実施しました。	◎
※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 平成22年4月に川喜多記念館が開館し、鎌倉の新たな文化発信の拠点として、鎌倉らしい展示事業、映画上映等を行うことができました。	◎
※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 愛唱歌の普及のため、市民運動会など市の関連事業で愛唱歌の演奏や庁舎内で愛唱歌の放送などを行いました。	○

【生涯学習部】

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 鎌倉芸術館・鍋木清方記念美術館・鎌倉文学館・鎌倉国宝館などの文化施設では、夏季休暇に合わせ、若年層向けのイベントを企画・実施し、若い世代の利用促進を図りました。	○
※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 鎌倉文学館では、市立小学校と連携して、鎌倉ゆかりの文学者を授業の中で取り上げてもらい、文学館において実際の文学資料を示して授業を行うことで、児童の文学への理解を深めることができました。 また、次期指定管理者の選定作業を行いました。募集要項の中にモニタリングを導入することを規定し、次期指定管理期間では、モニタリング制度による実績評価を行うこととしました。	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【生涯学習推進担当】

・若者を対象とする取組市政は評価できるが、成果が伴っていない。若者が求めているものは何かをもっときめ細かく把握する必要があるのではないか。また、若者といっても幅が広く、どういう層を対象とすべきかも検討が必要である。

・イベントをきっかけとして若者が地域コミュニティとの関わりを持つようになることを期待する。若者に閉じたイベントにしない工夫をして、世代間交流を進め、異なった世代がお互いの価値観や、普段触れない芸術・文化に触れる機会が生まれることを期待する。



現在、鎌倉の文化の質的向上や文化活動の活性化を図るため市民文化祭やジャズ祭を開催しています。文化祭は、個人、団体の日頃の文化活動の発表の場であると同時に市民が文化に触れあう機会としています。ジャズ祭は、今年で15回目を迎え、幅広い年代の市民に親しまれる事業として定着し、団体の基盤も安定していることから、市は一定の支援を継続しつつも独立を促しました。また、若い世代を対象とする文化活動団体と文化の多世代交流について話し合いの場を持ちました。今後も既存事業に留まらず、創意工夫しあらゆる世代が参加できるものを検討していきます。

【生涯学習部】

・鎌倉の有形・無形の文化財の実態やその保護といった文化を守るといった活動も今後は視野に入れる必要がある。



鎌倉文学館では、所蔵する文学資料を計画的に修繕するとともに、資料の劣化に対応するため、必要に応じてレプリカを作成しています。鍋木清方記念美術館では、展示期間を短くし、比較的变化しやすい日本画の劣化を防止するとともに、計画的に修繕しています。

<E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

【生涯学習推進担当】

イベントの参加率が低い若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させる必要があります。

※未達成の理由<支障となった理由>
若い世代の趣味趣向が多様化しており、実施事業に反映しきれなかった。

【生涯学習部】

各施設ともに建設から多年を経過しており、今後は大規模な施設・設備の修繕が想定されます。

※未達成の理由<支障となった理由>

<F 今後の展開(取組方針)>

【生涯学習推進担当】

高齢者の人口割合が高い本市では、文化活動への参加者の年齢も高齢化の傾向にあり、新たな文化の創造・発信に向けて若い世代の参加が必要です。今後も関係団体等との協働により、若い世代への積極的な参加を求め、また、参加しやすい事業の実施に取り組んでいきます。

【生涯学習部】

各文化施設の運営状況は、問題ないものと考えていますが、今後は施設の老朽化に対応した計画的な取組が必要となります。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民文化祭への来場者数(+)	毎年、鎌倉市が主催する市民文化祭の年間来場者数	27,627 人	25,216 人	45,361 人	41,860 人	45,038 人	27,700 人	27,900 人
鎌倉芸術館・鎌木清方記念美術館・鎌倉文学館・鎌倉国宝館の利用度(+)	4施設の年間利用者数の合計	686,854 人	764,452 人	843,509 人	831,522 人	684,180 人	688,000 人	688,000 人
市民文化度(+)	ここ1年間に、文化的イベントに参加したり、文化施設に行ったりしたことがある市民の割合	43.9 %	41.1 %	39.2 %	37.8 %	33.9 %	45 %	46 %

<H 事業コスト総額と>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	600,015千円	773,146千円	499,070千円					
	(国・県)	11,428千円	46,174千円	0千円					
	(負担金等)	5,991千円	5,662千円	5,544千円					
	(一般財源)	582,596千円	721,310千円	493,526千円					
	人員配置数	4.9人	5.9人	5.9人					
	人件費 (B)	46,906千円	54,343千円	51,043千円					
	総事業費(A+B)	646,921千円	827,489千円	550,113千円					
	対前年比		127.9%	66.5%					

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・市民文化祭への来場者数はここ数年急増していることから、このような市民が交流を通して、鎌倉の文化を分かち合う場が必要であることが確認でき効果は認められる。
- ・若者を対象とする取組姿勢は評価できるが、成果が伴っていない。若者が求めているものは何かをもっときめ細かく把握する必要があるのではないか。また、若者と言っても幅が広く、どういう層を対象とすべきかも検討が必要である。
- ・ジャズ祭の団体を独立させるなど、インキュベーション機能を果たしていることは評価できる。今後の各種団体の自立を支援する方向性を持ち続けて欲しい。



課題・提言

- ・若者に対する企画力が不足している。市の若手職員、若手市民を積極登用して、企画力を上げてほしい。
- ・箱根細工は、若い職人が中心となって、若い世代にも受け入れられるデザインの工芸品を作っている。鎌倉彫でも同じような取り組みができないか。
- ・ジャズ祭もよいが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないものか。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・モニタリング制度の検証結果を是非公開して頂きたい。特に施設の利用者を如何に増やすか、に注目したい。
- ・“歴史を継承し、文化を創造するまち”を認識し、官民協働のもと努力を重ねていきたい。